

理系 × 商社

商社で活躍する理系人材

文系の仕事ととらえられがちな“商社”。文系人材が多く活躍しているのは事実だが、多様な事業領域を有する総合商社において、理系の専門知識だけでなく、理系として培った考え方や姿勢などを活かして活躍している理系人材は少なくない。事実、今回取材した三井物産では毎年多くの理系社員が入社し、活躍している。

三井物産は、主に「金属」「機械・インフラ」「化学品」「エネルギー」「生活産業」「次世代・機能推進」の6つの分野で多岐にわたる事業を展開。「マーケティング」「ファイナンス」「ロジスティクス」「リスクマネジメント」「IT・プロセス構築力」といった機能を組み合わせ、大規模な事業を含む多くの案件を成功に導いてきた。

その三井物産で活躍する理系出身社員から、理系の素養を活かしながら、幅広い働き方ができる商社の魅力を聞いた。

6つの事業分野と
5つの機能



© Chevron Upstream Europe

資源という産業基盤を開発するダイナミズム

事業投資

エネルギー第一本部 石油・ガス資源開発部 事業第一室 / 工学研究科 修士 繁富啓詞(しげとみ あきなり)

ホスト国の発展に貢献

三井物産は中東、東南アジア、オセアニア、北米、欧州など20カ国以上の地域で、石油や天然ガスの権益を保有しています。私が所属しているエネルギー第一本部の役割は、エネルギー資源ポートフォリオの拡充とバリューチェーン展開の強化であり、私は中東・アフリカ地域の石油・ガス資源の探鉱・開発・生産事業に携わっています。当社が保有する資産は、石油・ガスを探す探鉱段階、発見後の開発段階、生産段階と様々ですが、その案件規模は巨大であり、投資規模は



探鉱案件だと数十億円、開発・生産案件だと数百億円にもなります。当社はパートナーと共に巨額投資を伴う探鉱・開発・生産計画を策定していますが、私は投資決断プロセスのコーディネーターとして、案件の経済性評価や、投資子会社の業績・リスク管理、資金調達などを行います。

最大のやりがいは、ホスト国発展の根幹となるビジネスに関われるところ。石油・ガス開発だけでなく、インフラ・化学品・食料ビジネス等、総合力をもって多面的に国の発展に貢献できるところは、多岐にわたる商材を扱い、時代のニーズの産業的解決を使命とする総合商社、三井物産ならではのやりがいです。

当社が参画するオマーンの原油生産油田の現地視察をした時は、パートナーとオマーン料理を食しながら、砂漠の彼方に探鉱井の掘削設備が立っている景色を目にしました。ホスト国への貢献を胸に、プロジェクト現場で胸が熱くなったことを覚えています。

技術を「発芽」させるといって夢を描き総合商社に

石油・ガス資源開発ビジネスではプロジェクトマネジメントが重要ですが、働く上で、私は大学院時代の経験が活きていると思います。研究で用いる実験装置を作る際に、教授とコンセプトを摺合せ、予算をもらい、技術担当と共に機器の設計・制作・運転を行いました。これはまさにヒト・モノ・カネをマネジメントするプロジェクトのフローそのもの。財務・会計・法務知識等、新しく覚えることは沢山ありましたが、商社でも理系の強みが活きることを実感しています。

事業投資

日本人だから、そして総合商社だからできることがある

金属資源本部 ベースメタル部 プロジェクト第二室 / 理工学部 卒 丹下さくら(したげ さくら)

南米ペルーで、日本との架け橋に

入社後はまず基礎化学品本部で本部戦略の立案に携わり、その後アロマ・化成品事業部で営業を経験。2013年から海外修業生制度で、スペイン語を学ぶために南米ペルーに2年間赴任しました。そして現在は金属資源本部ベースメタル部で、南米での経験を活かし、三井物産が

私は大学院で都市型風車の開発を行っていたのですが、これはいわば日本の最新技術の「タネ」を作る研究でした。そして研究を通じて、「タネ」の「発芽」までには莫大な時間がかかるということやビジネスのしくみが必要であることを同時に学びました。就職活動の際は、自ら「タネ」を作る立場になるか、「発芽」に貢献する立場になりたいかを考え、結果として三井物産を選択しました。当社の使命である、時代の変化に先駆けたビジネスをつくるに当たり、将来、日本の技術を「発芽」させるようなしくみをつくりたいと夢みています。

保有するチリ銅鉱山案件を担当しています。資源開発を通じて人々の生活に欠かせない銅を世界に安定供給し、より豊かな社会を実現するというのが我々の使命です。鉱山事業では沢山の関係会社の運営が必要となり、加えて巨大な権益を持つた資源メジャー等がパートナーとして関わってきます。案件規模が大きく、1つの鉱山に数%出資するだけで数十億ドル

という金額になります。この規模感の中、いかに周囲に対して付加価値を提供できるかという点が商社パーソンとしての醍醐味だと感じています。

これまでを振り返って印象深かったのはペルーでの経験です。1年目は大学等で語学と現地文化を学び、2年目は現地法人の新事業開発課で働きました。そこで感じたのは、「日本人だから、そして総合商社だからできることがある」ということ。現地では、環境に優しい日本製自動車ペルー政府に無償提供するという日本政府のODA案件に日本のメーカーと協力して参加し、現地側エージェントとしてペルー政府を全面的にサポートするなど様々なプロジェクトに参加しました。文化の違うペルーの人々に囲まれて働き、少しずつ信頼関係を構築していく中で、最終的には現地の人たちから「半分ペルー人だ」と言われるくらい溶け込

めました(笑)。大切な友人もでき、これからも大好きな南米に貢献していきたいと考えています。

仕事に活かせる理系ならではの素質

これまで複数の事業部で様々な案件を担当してきましたが、共通して必要となる「理系ならではの素質」があります。まず、膨大な情報の中から本質を理解し、周囲の人にロジカルに自身の見解を発信するという論理的思考回路は、仕事をすすむ上でとても重要なこと。また、収益を出すということは1つ1つの小さな努力と結果の積み重ねです。現在決算の担当もしていますが、「結果」は必ず「事実」の積み重ねであるという点も、理系らしい感覚だと思えます。化学品の仕事においては複雑な製品を理解する上で学生時代の知識が活きましたし、鉱山案件でも鉱石を掘って銅ができるまでの流れはまさに化学そのものです。

このように理系ならではの素質は多くの場面で活かされますが、情熱をもって人を巻き込んでいくこと、未知の分野に挑戦していくこと、そしてプロジェクトが上手くいった時の達成感というものは、研究で結果を出した時とは異なる喜びがあります。そうした喜びは、総合商社だからこそ得られているのだと思います。

理系の素養を活かし、新技術から事業を興す

新規事業

ICT事業本部 新社会システム事業部 第一事業室 / 工学部卒
松本秀一(まつもと・しゅういち)

海外を舞台に、様々な領域で 新事業を生み出す

三井物産は自社の強みを活かせる成長分野を7つの「攻め筋」として設定し、部門を越えた連携による事業展開を狙っています。今、私が携わっている事業も、この7つの攻め筋の1つであるメディカル・ヘルスケア領域で、ITを活用して新しい事業創造に取り組むものです。私の部署では、メディカル・ヘルスケア関連機器を製造開発するイスラエル企業に

対して出資しました。この投資を機に、私はそのイスラエル企業と議論や交渉を行い、製品を理解した上で顧客候補となる日本の企業に出向き、事業展開するための提案等を行っています。こうした新しい技術に出会ったときに、それがどれくらい革新的なものなのかを理解する上で、理系の知識が強く活かされ、顧客にとってより良い提案につながります。

また、今の部署に着任する前には、「早期海外派遣」という若手の海外研修制度

コミュニケーションの土台は、 研究を通じて培った

この仕事は、文化も利害関係も異なる関係者とコミュニケーションを図り、ビジネスを動かしていくという点で苦勞も少なくありません。しかし、そういった場面で、学生時代に研究室で培った「誰にでもわかりやすく、論理的に説明する」という経験が活きていると感じています。海外でビジネスをするためには、自分とバックグラウンドが大きく異なる人とコ



コミュニケーションを行うことが必要ですが、ロジカルに交渉材料を積み重ね、最終的に共通の理解や合意を得られた瞬間は本当に嬉しいですね。

商社は自分たちの製品を持つているわけではなく、人的ネットワーク、海外店から得られる情報、多岐にわたる産業で展開する既存事業など、総合商社ならではの事業資産を活かして、新規事業立上げや支援で価値貢献をする存在です。そのためには、常に新しいことに挑戦することが求められますし、またそれが商社の生命線とも言えます。様々な分野で自身のアイデアをカタチにして事業創造に挑戦し続けたいという人にとっては、非常に良い環境ではないでしょうか。私も総合商社だからできる大きな仕事に、これからも挑んでいきたいです。



未知の価値を生み出し続ける、総合商社の屋台骨

コーポレートファイナンス

財務部コーポレートファイナンス室／理工学研究科修了

溝口奈穂（なほ）さん

財務が調達した資金から新しいビジネスが生まれる

私の所属する財務部では、資金調達・運用を行うと共にプロジェクトやM&A等の営業案件の推進支援を行っています。私はその中で、当社の信用力を背景にした資金調達手段である『コーポレートファイナンス』を担う部署に所属し、金融機関対応窓口を担当しています。具体的には、その時々々の市場環境を考慮した上で有利な条件での資金調達を行うべく、『金額』『金利』『期間』といった観点から借入交渉を行います。また、金融機関と日頃からコンタクトを取り、長きにわたって築き上げてきた良好な関係を維持向上させることも重要な役割の一つです。

財務という仕事には決まった方法論はなく、世の中の動きを敏感に察知し、迅速に判断し対応する必要があります。これが財務の難しさでもあり醍醐味だと思っています。そして、私たちが調達した資金が土台となって、様々なビジネスが生

まれていきます。財務とは、まさに総合商社の屋台骨。新しいビジネスが始まったというニュースリリースを目にした時には、達成感と仕事の意義を感じられます。

理系で培った力が、先見えな世界を拓く

私はこれまでに財務や経理を経験してきましたが、実はどちらも入社前には想像もしていなかった仕事でした。ですが、様々な経験を積んだ今では、これこそが総合商社の良さなのだと感じています。商社に入ると、それまで想像もしていなかった人生が始まるのです。

私は部門研修で1年半ロシアに滞在していたこともあります。経理以外にも強みを持ちたいと考え、自ら志願してのモスクワ赴任でした。9カ月の語学学習期間の後に配属された現地法人の経理課では、ロシア人のスタッフと話しながら実務を担う彼らが抱える問題を見つけ出して共に改善方法を探りました。日本での業務経験を活かしてロシアの地で業務ブ



ロセスの改善を実現できたことは、貴重な経験となりました。また、未知の世界に踏み込んだことで世界をより小さく感じられるようになり、多少のことでは動じなくなったのも大きな収穫です。

理系の研究では、研究テーマを自分で考えて、ストーリーを描き、実際に行動して結論を出しますよね。私も研究室で背景・目的・方法・結論と辿っていく研究ステップを通じて構想力を大いに鍛えられました。三井物産に入社してからは未知との遭遇の連続でしたが、そのたびに研究室で経験した研究ステップが役立ちました。知らない、わからない、答えが無いところから、どのように業務に取り組み、その結果をどのように活かすかを考えるのは、まさに研究プロセスそのものです。商社は枠組みにとらわれず常に新しいビジネスを探っていますから、理系で培われた「考える力」は大いに活きると思います。